

京都府漁海況情報

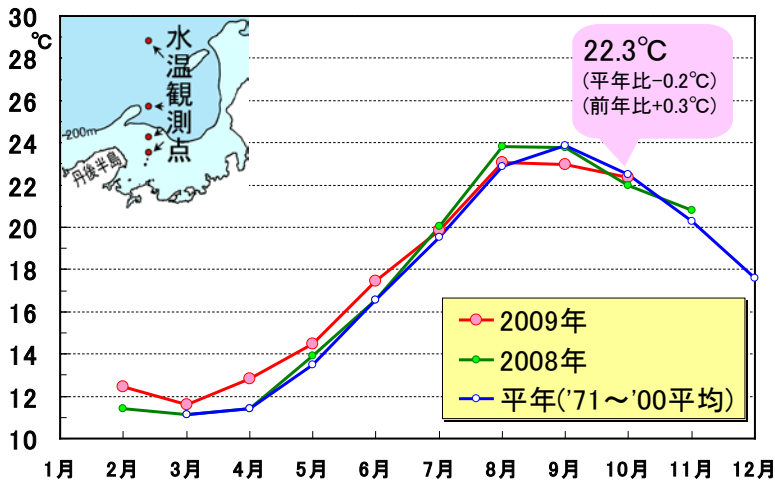
京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>
 電話: 0772-25-3078 FAX: 0772-25-1532

海の状況

【現況】

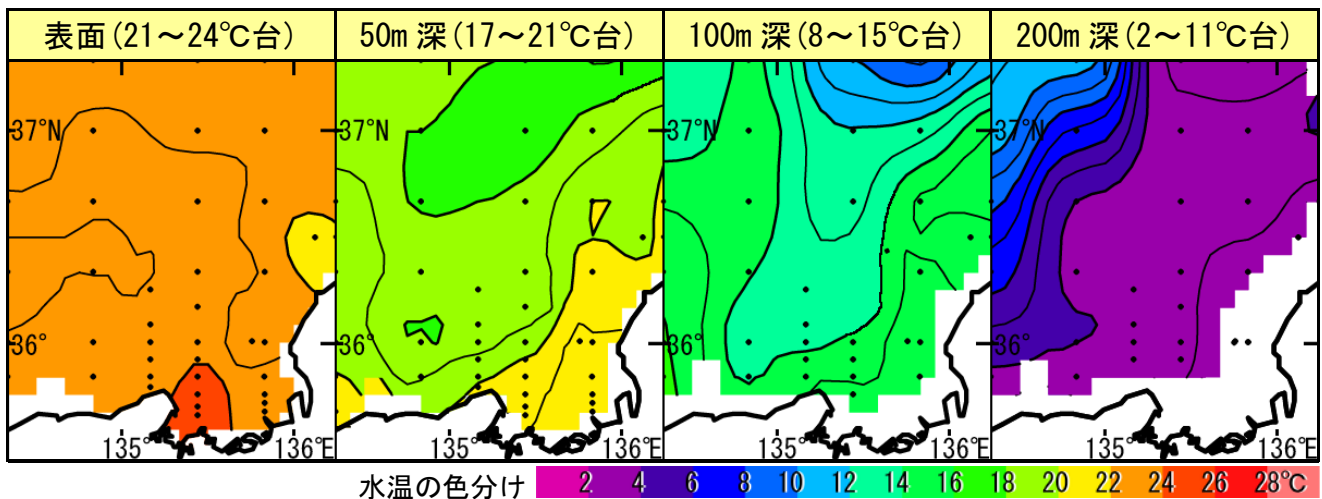
10月上旬における京都府周辺の表層水温は、ほぼ平年並みで推移していました。

京都府沖の表層水温 (0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温 (2009年10月上旬)

資料元: (独)日本海区水産研究所



【今後の見込み】

資料元: (独)日本海区水産研究所, 気象庁, 九州大学応用力学研究所

向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並み」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年より強め」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し*	「平年並み」で推移する見込み

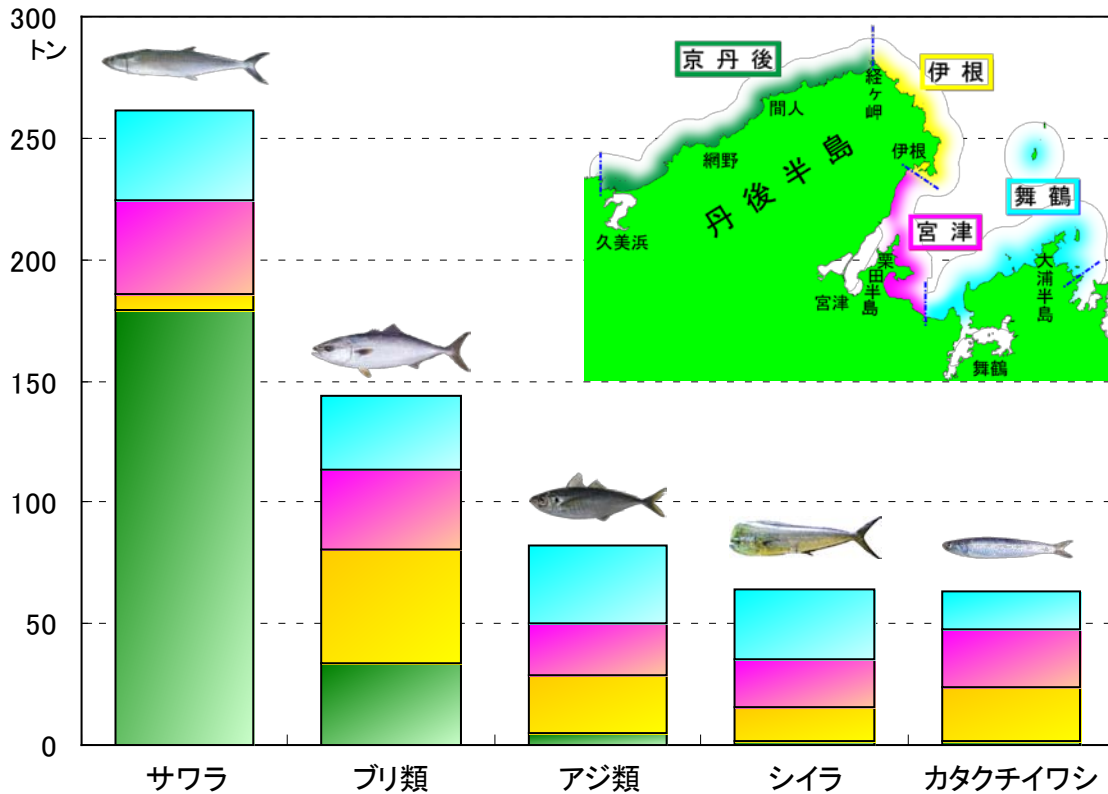
*冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすいと考えられています

漁模様 ～2009年9月～

【定置網漁業】

アジやカタクチイワシが例年ほど多獲されず、全体では平年の7割弱、サワラが豊漁だった前年の6割弱の水揚げでした。

2009年9月の地域別漁獲量(上位5魚種)

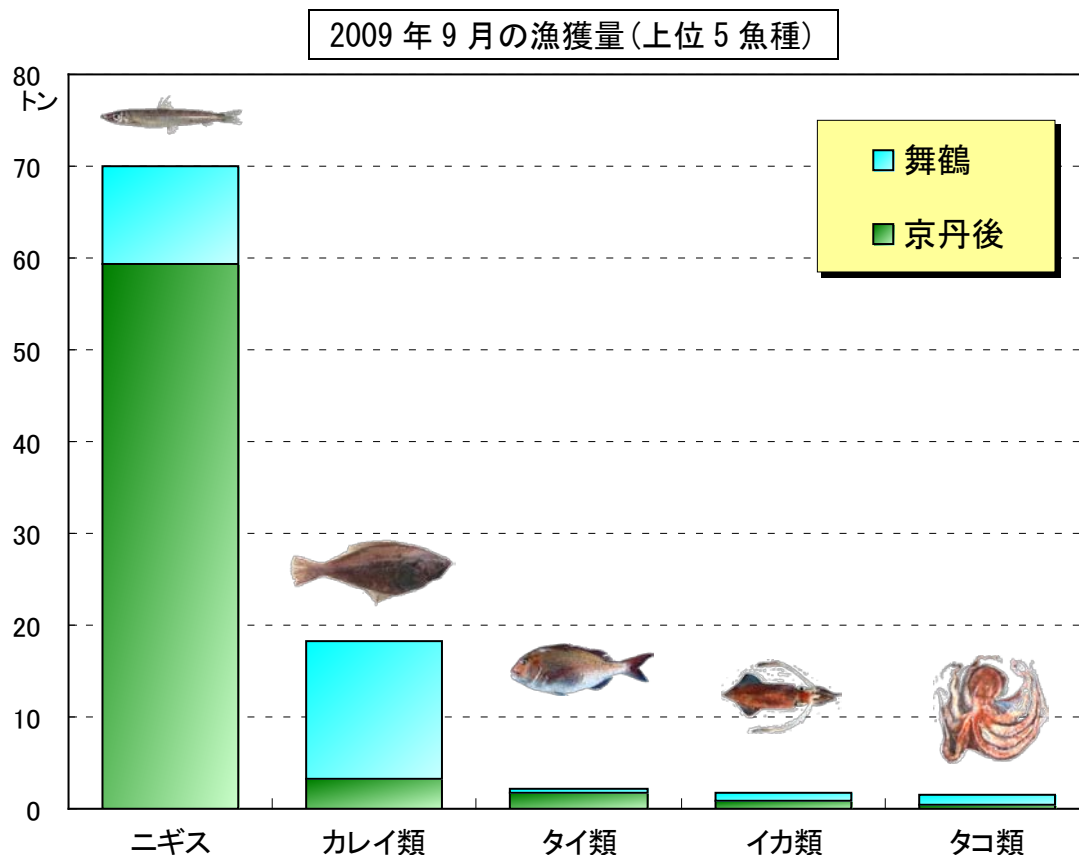


9月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2009年	2008年(前年比)	平年(平年比)	備考
サワラ	261.0	502.2 (52%)	260.8 (100%)	<サワラ> 主に尾さ長 40cm 前後のさごし銘柄が約 7 割, 尾さ長 60cm～90cm のさわら銘柄が約 3 割でした。 <ブリ類> 尾さ長 20cm～40cm 未満のつばす銘柄が主体でした。 <カタクチイワシ> 体長 3～8cm 台で, 5cm 前後が主体でした。
ブリ類	144.1	137.1 (105%)	133.6 (108%)	
アジ類	82.3	87.6 (94%)	174.5 (47%)	
シイラ	64.1	155.2 (41%)	90.3 (71%)	
カタクチイワシ(たれ)	63.2	65.0 (97%)	155.7 (41%)	
カマス類	15.5	75.0 (21%)	49.6 (31%)	
イカ類	8.4	12.1 (69%)	21.6 (39%)	
タチウオ	7.5	1.2 (629%)	12.7 (59%)	
ウルメイワシ	6.6	5.6 (117%)	5.2 (127%)	
タイ類	6.2	1.4 (439%)	2.1 (303%)	
その他	49.2	177.1 (28%)	151.8 (32%)	
合計	708.2	1219.4 (58%)	1057.9 (67%)	

平年は過去 10 年平均

【底曳網漁業】

3カ月の禁漁期間を経て、9月から操業が再開されています。ニギスが好漁で、全体の水揚げは前年の1.3倍、平年並みの堅調な滑り出しでした。

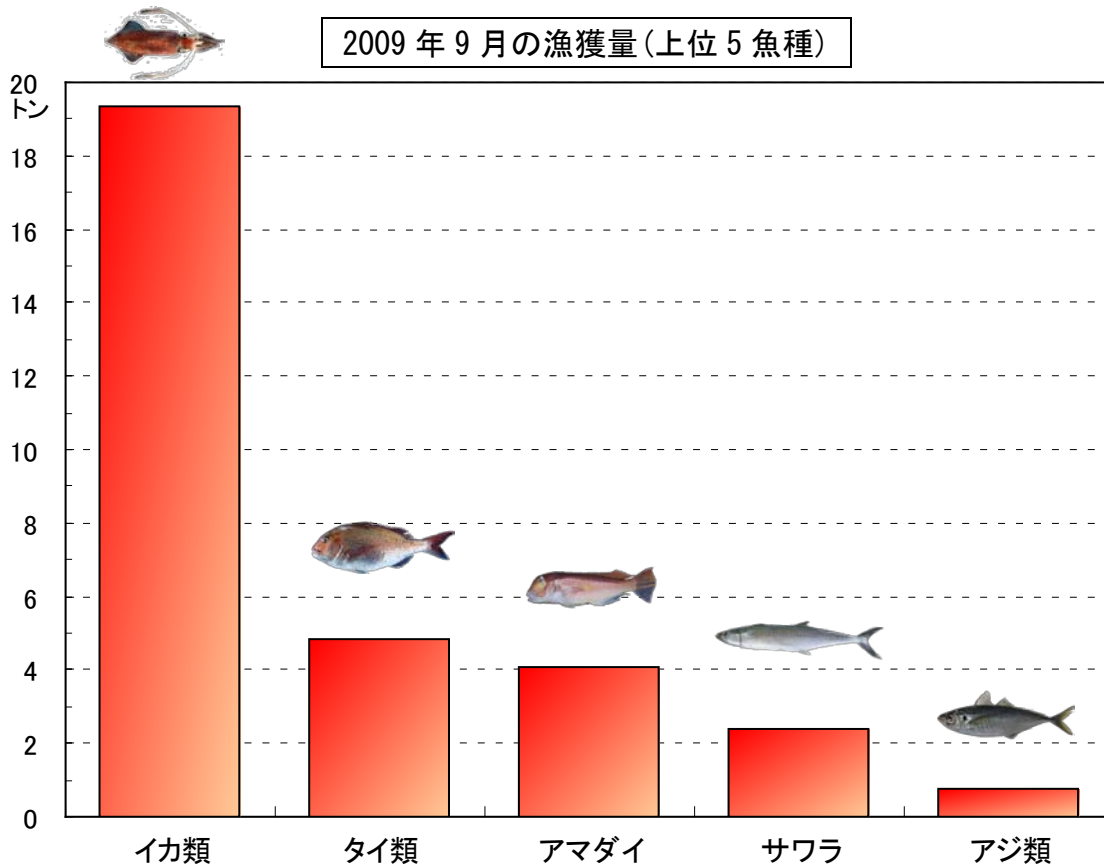


9月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2009年	2008年(前年比)	平年(平年比)	備考
ニギス(沖ぎす)	70.1	46.1 (152%)	63.3 (111%)	<カレイ類> ヤナギムシガレイ(ささがれい)が7.2トン、ムシガレイ(みずがれい)が3.9トン、アカガレイ(まがれい)が3.6トン、ソウハチ(えてがれい)が2.3トンなどでした。
カレイ類	18.4	20.7 (89%)	25.4 (72%)	
タイ類	2.2	5.6 (40%)	2.8 (81%)	
イカ類	1.7	1.1 (151%)	2.7 (62%)	
タコ類	1.4	3.8 (39%)	2.6 (55%)	
ハタハタ	1.4	0.2 (623%)	2.7 (52%)	
エビ類	0.5	0.5 (99%)	0.1 (342%)	
メバル類	0.3	0.6 (43%)	0.4 (73%)	
貝類	0.2	-	0.1 (321%)	
タラ	0.1	-	0.0 (549%)	
その他	24.3	13.3 (183%)	18.4 (132%)	
合計	120.6	91.9 (131%)	118.5 (102%)	

平年は過去10年平均

【釣り・はえなわ漁業】

ソデイカ(たるいか)が好漁で、全体では前年の約1.3倍、平年並みの水揚げでした。



9月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚種	2009年	2008年(前年比)	平年(平年比)	備考
イカ類	19.3	9.6 (202%)	17.2 (113%)	<イカ類> ソデイカ(たるいか)が17.7トン、ケンサキイカ(白いか)が0.9トン、スルメイカが0.7トンなどでした。
タイ類	4.8	4.3 (113%)	4.0 (120%)	
アマダイ(ぐじ)	4.1	3.8 (109%)	3.1 (132%)	
サワラ	2.4	2.0 (118%)	0.7 (316%)	
アジ類	0.7	0.3 (279%)	0.5 (157%)	
メバル類(もいお)	0.7	1.7 (42%)	0.8 (90%)	
ブリ類	0.6	0.5 (122%)	1.5 (41%)	
タチウオ	0.2	0.1 (157%)	0.4 (53%)	
スズキ	0.1	-	-	
カマス類	0.1	-	0.4 (28%)	
その他	1.6	3.6 (45%)	4.5 (35%)	
合計	34.6	25.8 (134%)	33.2 (104%)	

平年は過去10年平均

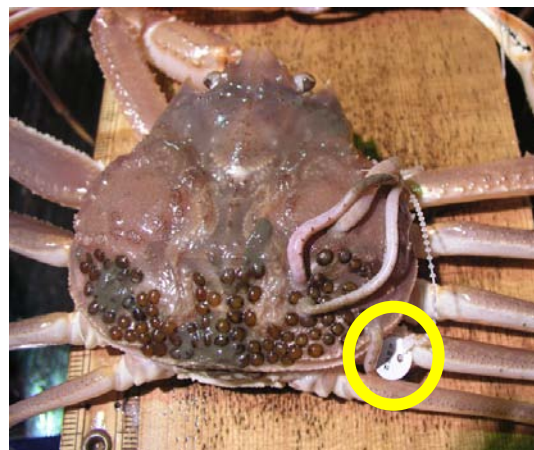
【トピック ～ズワイガニと寒ブリ～】

丹後の冬の味覚を代表するズワイガニと寒ブリについて、今シーズンの資源状況(推定)をお知らせします。

<ズワイガニ>

毎年、カニ漁解禁前の8月下旬から10月上旬に、海洋調査船「平安丸」でカニ籠(左下写真)を使った試験操業を行っています。この調査により、ズワイガニの資源状況をはじめ、カニの移動や生残率及び資源管理の効果などを推定することができます。

今年の調査で採捕した尾数は、過去5年平均に比べると、雄ガニ(松葉ガニ、間人ガニ)が89%、雌ガニ(こっぺ)が127%でした。



採捕したズワイガニは、船上で甲羅の大きさなどを測定し、右上写真のような標識(タグ)を付けて、その場で速やかに放流しています。標識を付けたカニを発見されたときには、お手数ですが海洋センターまでご連絡ください(粗品を差上げます)。

<寒ブリ>

毎年、(独)水研センターが小型魚(つばす、はまち銘柄)も含めたブリの資源状況を調べており、日本近海における現状の資源水準は中位で増加の傾向と評価しています。また、石川県水産総合センターによると、日本海北部に分布する大型ブリ(体重6kgを超える2歳魚以上)の現状の資源水準は中位と評価しています。

今冬の海況については、丹後周辺の水温は平年並み、沖合からの冷水域の張り出しも平年並みで推移する見込みで(1 ページ目参照)、いずれも日本海北部や若狭湾沖からの大型ブリの南下回遊に特段不利な条件ではないとみられます。

資源や海況の予想から、今年度下半期の大型ブリの定置網漁獲量は平年並み(過去10年平均55トン)、主漁期も平年並み(12月上旬～翌2月上旬)と推察されます。

若狭湾周辺への大型ブリの来遊と適度な時化が重なるなどして、丹後の多くの定置網で大漁になることを期待します。



【トピック ～サワラの標識放流～】

丹後の海でサワラの豊漁が続いて久しく、平成 18 年以降には 3 年連続日本一の水揚げを誇っています。サワラは比較的魚価も高いので、定置網や釣り漁業を営まれている方々にとっては大切な収入源になっていることと思われます。

ところが、実のところサワラはどのような回遊生活を送っているのか詳しく分かっていません。そこで、この秋からサワラ(さごし銘柄含)の標識放流を日本海側の各府県で一斉にしています。

もし、背中に黄色い標識を付けたサワラを発見されたときには、お手数ですが海洋センターにご連絡ください(粗品を差上げます)。その際、魚は市場に出荷して頂いて結構ですので、標識だけお渡し頂けると幸いです。

